



「片山社長が独立されるまでの経緯をお聞かせ下さい。」
以前は「アドビック」という道路保安用品を扱っている会社に勤めていました。そちらでは営業として、とても多くのことを勉強させていただきました。周りには年上の方が多かった中で、29歳の時には営業部長を任せていただくようになり、売り上げ目標の設定や人材育成などを担当していましたよ。そんな中、会社が目指す方向性と私の考え方に、相違を感じるようになりましてね。ただ、会社には本当に多くを勉強させていただきお世話になったので、絶対に不義理はしたくない。それで、独立の意思を社長にきちんと伝えて話し合い、商材を「アドビック」から購入させていただくことなどを約束した上で、円満に退社しました。実は、次期社長にとの話も聞いていたのですが、リスクを背負ってでも自分でチャレンジしてみたいとの想いがあつたんです。

「社長は義理を重んじられる方なので、ね。独立に際して、不安は無かったですのうか。」
ありました。以前はお客様から「アドビック」の片山」という目で見られていたから、自分が会社から離れた時にどんな目で見られるのか、想像がつかなかったんです。ですが幸いにも、多くのお客様と引き続きお付き合いいただくことができていると聞いています。特に「中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋」さんにはよくしていただいていますね。本当にありがたいことです。

「社長のお人柄があつてこそ、お付き合いが続いているのでしょうか。」
はい。自宅と事務所を兼用しながらのスタートでした。その後しばらくして、事務を担担してくれるスタッフを雇ったんです。高い意識を持って仕事に臨んでくれており、私がいなくてもお客様からのご注文や納品書・請求書などの管理を全てこなしてくれていますから、助かっています。頼りになるスタッフさんがいらつしゃるのですね。同業他社さんも多いと思いますが、いかがですか。
やはり規模の大きな仕事などは、大手さんが出てこられると敵いません。ですから私共ができることはいかにお客様に満足いただけるかを考え、お値段や対応の良さを売りにして、ご期待に応えていくことだけだと思っています。「ネクステージ」は2013年に立ち上げましたから、まだスタートしたばかりの若い会社。周囲との協力関係をしっかり築き、さらに伸ばして

ニーズに合わせた交通安全商品を提供し 人々の安全・安心の一助となる

交通安全用品、道路工事用品などを取り扱っている「ネクステージ」。同業の会社で経験を積み、ノウハウを得た片山社長が2013年に設立した会社だ。スタート以来順調に事業を進め、熱意を持って日々の仕事にあたっている社長のもとを、本日はタレントの板東英二氏が訪問。インタビューを行った。

COMPANY PROFILE

交通安全用品、道路工事用品、防犯防災用品
高速道路用規制機材、LED表示機、車載用標識

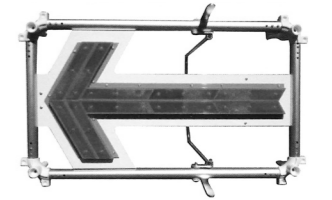
株式会社 ネクステージ

【本社】大阪府大阪市天王寺区玉造元町18-28 TEL 06-6777-4367
【中部】愛知県一宮市三ツ井7-9-23 TEL 0586-75-0121



ゲスト 板東英二

代表取締役 片山義浩



▲転倒を防止する風抜け構造の自発光式矢印板。軽量なため設置・撤去が簡単で、積み重ねて置けるのでコンパクトに収納可能。



▲保安灯「エアリー」。夜間自動点滅機能付きで暗くなると自動で点滅し、明るくなると消灯。高速道路でバツグンの効果を発揮する。



▲大型反射板式回転灯の代表選手「AVライト550W」。メンテナンスが容易で、反射鏡は汚れても磨けば光る。「アドビック」の創業のきっかけとなった商品だ。

WANT EVERYBODY TO KNOW THAT NEXTAGE

▼「ネクステージ」では交通安全用品や道路工事用品などを中心に取り扱い、防犯関連の商品も扱っている。安全・安心が保証されているとは言えない近年において、人々の防犯グッズへの感心は高まっており、個人の家庭で防犯カメラを設置しているケースも増えてきた。また警視庁の発表によると、この10年ほどは交通事故による死者数は減少傾向にあるというが、日々多くの事故が起こっていることに変わりはない。同社の事業は、人々に安全・安心を提供する大切なもの。だからこそ、新たに参入しても勝算があると片山社長はにらんでいる。

▼社長は、まずは「ネクステージ」という会社があることを少しでも多くの人に知ってもらわなければならないと考えている。そこで、2014年から「楽天市場」での出店を開始。商品を買ってほしいとの思いはもちろんあるが、「ネクステージ」の名前が人々の目に触れる機会を増やしたいとの思いではじめたのだという。そうして同社を知ってもらい、商品を提供し、1人でも多くの人を事件や事故から守ることが、社長にとって何よりの喜びなのだ。お客様のためにできることを模索しながら、同社は社名の通り、次のステップへと進んでいこう。

GUEST COMMENT



「片山社長は、以前の会社の社長さんに育ててもらったとのことと、とても感謝しておられました。若いころは柔道に打ち込んで心身を鍛えられたそうだから、柔道を通して義理を大切にすることを育んでこられたのかもしれないですね。これからは楽しみな会社です。私も応援させていただきますので、お身体に気をつけて、是非頑張ってください」

「代表取締役 片山義浩」
いきいですね。
「スタートされたばかりとはいえ、順調に基盤を固めていらつしゃるよう感じます。新規顧客の開拓などもされているのですか。」
ええ。飛び込みで営業させていただくため、はじめはなかなかお話を聞いていただけないことも多かったですね。実は以前の会社「アドビック」は、大型回転警告灯の代表的な商品「AVライト」で特許を取得してしまっていて、その製造・販売のために創業された会社なんです。今は少なくとも創設した昔は工事現場には必ずと言っていいほど「AVライト」がありました。ですから皆さん知って下さっていますし、そういった商品を扱っていると言うと営業がし易く、助かりますね。
「お馴染みの「AVライト」です」と言えば、業界の皆さんは分かってくさるわけだ。これからの展望については、どうお考えですか。
近いうちに移転して会社を構え、商品の

在庫を持って運営していきたいと考えています。そして人材も増やしていけたら良いですね。2015年1月に新しい社員が1人入ってくれましたので、これから期待しています。
「会社が成長し、人が増えていけば人材育成が鍵になるでしょうね。」
おっしゃる通りです。自分一人が動くだけなら簡単ですが、共に動ける人を育てることが大切ですし、一番難しいことではないかな。自分が思っているほど相手に意思が伝わっていきなかつたりするものですか、意思を共有し、同じベクトルを向いて一緒に進んでいける人材を育てていきたいです。そのためには、まずは私の今の営業スタイルがお客様にとって本当に良いものか、今一度自分を見つめ直し、自己研鑽に励むつもりです。